



こーひーぶれいく

大学サッカーの魅力

濱 健夫

Hama Takeo

本誌の読者にはサッカー好きの方、そしてご自分でプレーしている方も多くいらっしゃると思います。私はサッカー好きではありますが、中学・高校の体育の授業以外でプレーした経験はほとんどなく、また、国内外のサッカー選手にそれほど詳しいわけではありません。戦術等の解説も「ふーん」と聞く程度ですが、今、大学サッカーに魅力を感じています。

大学サッカーとの出会いは、少年サッカーでした。息子が小学生の低学年の時に、小学校単位で構成されている少年サッカークラブに入団しました。入団を勧めたのは母親で、「友人が多くできれば」程度の考えで入団したと記憶しています。当初、息子はキーパーを担当する際に、ゴール前で砂遊びを始めてしまう始末で、時々付き添いで行く私は、いつまで続くのだろうか、と思ったものです。

その少年サッカーのコーチとして、地元の筑波大学サッカー部（蹴球部）の部員に担当いただきました。所属した少年サッカーチームでは、子供により技術は大きく違いますし、なにより、サッカーに対する熱意も異なります。単にサッカーを教えるだけではなく、子供達の個性をみながら、チームをまとめることは、二十歳前後のコーチにとって、簡単なことではなかったものと思います。息子が大学生になった時の、「〇〇コーチと同じ年齢になったことが信じられない。コーチはもっと大人で、責任を背負っていた」との言葉を聞き、コーチ達の子供達への影響はサッカーだけに留まっていないこと、そして子供達の心に長く残っていることを再認識しました。

サッカーチームでは、コーチのお世話により、年2、3回の頻度で、関東大学サッカーリーグ戦の観戦バスツアーが開催されていました。息子が小学校3年生の時に参加した西が丘サッカー場（現：味の素フィールド西が丘）の観戦バスツアーが、初めての大学リーグ観戦でした。それ以降、息子と一緒にバスツアーに参加していましたが、息子の小学校卒業と同時に、観戦から遠ざかってしまいました。しかし、5、6年前に筑波大学内のグラウンドで開催された試合を観戦してから、機会があれば観戦するようになり、最近では、近隣都県への観戦にも時々足を延ばすようになってきました。

サッカーを観戦し始めて1、2年すると、とにかく長いボールを蹴り込むチームがあれば、ボールの保持を第一にするチームがある等、なんとなく大学の特徴が分かってきました。すると、応援する大学以外の試合でも、「どんな試合になるのだろう？」と興味をもち、今は続けて行われる2試合を観戦することもあります。また、試合に出ていない部員による応援の様子や、それぞれの大学に特徴的な応援歌等を見聞きすることも楽しみの一つです。サッカーと同様に、応援にも大学毎に個性がありますが、判定や相手選手へのヤジが全く聞こえてこない大学の応援には、気持ちの良さが残ります。

選手が大学に在学するのは4年間であり、年度が変わるとメンバーが比較的大きく変わります。印象に残った新入生が、学年の進行につれて成長して行く様子は、本当に楽しみです。鳥栖に所属するM選手や新潟のT選手、北九州のN選手、K選手等、在学期間を通して応援してきた選手達が、Jリーグで活躍していることに喜びを感じています。

高校サッカーに比べると、マスコミで取り上げられることが少ない大学サッカーですが、多くの魅力をもっています。皆さんも機会がありましたら、是非、観戦してください。

（獨協大学特任教授・筑波大学名誉教授）